

1 経営理念(ミッション・ビジョン)

2 めざす子供像

| | |
|--|---|
| I 教育に係るマネジメント (1)人を育てる人が育つ学校 <教師> (2)子供の姿で教育を語る学校 <子供> (3)シンプルイズベストが定着した学校 <高い質> | 柔軟に考える かしい子 挑戦する たくましい子 集中する さわやかな子 |
| II 組織に係るマネジメント (1)ミドルリーダーが運営する企画委員会 (2)ミドルアップダウンによる組織運営・管理 (3)DCAPサイクルによるカリキュラムマネジメントの実施 | 『神石ING ～自分を磨き続ける～』 |

3 経営目標・評価項目・評価・達成状況

評価基準 達成度＝達成値÷目標値×100 A(達成度100%以上) B(達成度100～80%) C(達成度80～60%) D(達成度60%未満)

| 中期経営目標 | 短期経営目標 | 重点 | 評価計画 | | 時期 | 達成値 | 自己評価 | | | |
|---------|--|----|---|--|---|-----|------------------------|---|--------|---|
| | | | 目標達成のための手立て | 評価指標 | | | 短期経営目標の達成状況 | 評価 | 改善方策 | |
| | | | | 評価項目 | | | | | | 目標数値 |
| 確かな学力 | 神石小版「学びの 変革アクション プラン」に基づき、 児童が主体的に学 ぶ課題発見・解決 学習による協働的 な学習をすすめる ことにより、児童 の学力向上を図る | 1 | 総合的な学習の時 間・生活科・算数科を 中心として、研究を推 進し授業改善を図る。 課題発見・解決学習を 展開し、基礎的・基本 的な学力の定着を図 る。 | 1 各学年の学期末、学年末 テスト(算数)の平均点が到 達得点を上回る。 | 1 各学年平均(算数) ÷到達得点＝100% 以上(全学年) | 中間 | 1 算数5/6学年 2 算数 108% | 1〇各学年の学期末テストでは、ほとんどの学年で目標を達成することができていた。 ●算数科は、文章問題において演算決定の間違が見られた。「分かること」「答えの単位」はきちんと把握できているが、そこから「求めること」「どんな式になるか」を考えると、立式することに課題が見られる。 2〇棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る事ができていた。 ○目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができていた。 ●問題文を把握し、必要な数字を使って解く力に課題があった。 | B A | 1 文章問題を読んで計算を考えると、もとの数が増えるのか減るのか、分けるのかいくつ分あるのかということや、おおよそどのくらいの数になりそうかということなど、答えの見通しを持たせるようにする。 2 算数科の時間において問題把握場面の指導を徹底し、見通しを持って学習できるようにする。また、問題からどうすれば解けるのか(既習事項・文中の数字・見積もり)を確認し、自分で解く経験を積ませる。また、算数的な用語をキーワードとして与え説明やまとめ、振り返りを書かせるようにする。 |
| | | | | 2 全国学力・学習状況調査(算数)の結果が、全国平均を上回る。 | 2 本校平均(算数)÷ 全国平均＝100%以上 | | | | | |
| 豊かな心 | 他者と共によりよく 生きようとする 豊かな心を育てる | 2 | 神石小読書百選の活用により、学年に応じた読書目標を設定して取り組む。読書の関心を高めるための取り組みを行う。 | 低学年は、月に20冊以上と読書百選を2冊以上、中学年は500ページ以上と読書百選1冊以上、高学年は800ページ以上と読書百選1冊以上を読む。 | 80%(達成した児童の割合) | 中間 | 78% | 9月末までにひと月ごとの読書目標達成状況を集計したところ、78%の児童が目標の冊数またはページ数を達成していたが、目標数値に届かなかった。読書をする習慣がついていない児童や読書に興味を持っていない児童が固定化されている。 | B | 毎月、本の貸し出し実績リストを担任に配付し、児童の図書の利用状況が把握できるようにすることを継続する。また、「職員間で各学級での実践交流をする。読書ビンゴの達成者を掲示する。」など、読書に対する意欲を持てるような取り組みを図書担当・司書教諭・図書委員会を中心に企画し、実践する。 |
| | | | | 1 スピード、筋力・筋持久力を向上させるために、体力アップカードを活用し、体力向上を図る。 | 1 新体力テストの「50m走」「上体起こし」で80%以上の児童が県平均を上回る。 | | | | | |
| 健やかな体 | 目標を持って進んで体をきたえ、やりぬく気力と体力を育てる | 3 | 2 基本的な生活習慣の定着を図るため、「生活チャレンジ」の強化月間を設定する。 | 2 課題の項目「起床、就寝時刻・テレビ、ゲームの時間」について、達成率を85%以上にする。 | 2 75%(達成した児童の割合) | 年度末 | | 目標の起床時刻を守れた割合は自己評価81%、家族評価79% 目標の就寝時刻を守れた割合は自己評価82%、家族評価77% 目標のテレビ・ゲームの時間を守れた割合は自己評価84%、家族評価81% | | |
| | | | | 1 児童一人一人の実態をきめ細やかに把握し、迅速かつチームで対応する。 | 1 学期末に行う児童アンケートの3項目、項目①「いやなことを言われたり、からかわれたりしない」、項目②「ひとりぼっちではない」、項目③「気持ちをわかってくれる人がいる」に対して、90%以上の児童が肯定的に評価する。 | | | | | |
| 信頼される学校 | 児童・保護者・地域に信頼される開かれた学校を創る | 4 | 2 保護者や地域住民の客観的評価を児童に周知することにより、自他の成長が実感できるような指導をする。 | 2 運動会、道徳参観日、公開研究会、学習発表会において、保護者・地域・教職員アンケートを実施し、95%以上が肯定的に評価する。 | 2 90%(アンケートの肯定的評価の割合) | 年度末 | | | | |
| | | | | 1 90%(アンケートの肯定的評価の割合) | 2 95%(アンケートの肯定的評価の割合) | | | | | |